

平成21年11月24日

ソマリア海賊 更に組織化 行動範囲も拡大

「ソマリア海賊にハイジャックされ拘束されていたスペインのマグロ漁船（乗組員36人）が47日後に解放された」と、スペイン政府が、11月18日発表した。同政府は解放の条件を明らかにしていないが、支払われた身代金は、330万米ドルと伝えられている。

今年、50隻以上の運搬船、タンカー、漁船が、海賊に襲われ、現在も12隻が拘留されている模様だ。

情報によれば、ソマリア北東部に3つの基地を持つソマリア海賊は、莫大な身代金を稼ぐビッグ・ビジネスに成長し、今や、母船に小型快速艇を数隻乗せ、マダガスカル沖を含め、ソマリアから900海里以遠の海域まで行動範囲を拡大している。海賊は、AKライフル、ロケット弾等で武装。拘束した船をソマリアの基地へ連行、身代金を要求。「船、乗組員は傷つけない。身代金はキチンと配分する」ことを原則にした「海賊組合」も設立しているとも言われている。

ソマリア政府は、首都モガディシュの一部を支配しているだけで、海賊を制圧する能力は全くない。シェルマルケ首相は、今後、2年間で海賊の根を目指したいが、国際社会の支援が無ければ、不可能と述べている。実際、逮捕した海賊に禁固刑を課したソマリア高裁の裁判官が11月12日、殺害されたと報じられており、政府は為す術が無い。

スペインのように、対抗策として、武装した護衛（民間人）を乗せる手配を進めている漁船も出てきている。11月18日、ケニアのモンバサ港へ向って航行中の米国の運搬船は、襲来した海賊船に向け威嚇射撃とともに、大音響の警報を鳴らし、追い払ったことが報道されている。

英国の関係筋によれば、武装した護衛を乗船させることについて、国際社会は、未だ反対意見が多く、米国は、むしろ例外的と述べている。船を海賊から守るのは、国や海軍の責任であるとする意見が強いようである。

専門家は、「海賊は力で排除する他ない。海賊は、自らを危険に晒すことは避ける。襲撃する船が武装していることが解れば、近寄らない」と船の武装を勧めている。現在、アフリカ東岸水域の船の20%が武装していると言われている。

最近、1隻につき月額29,500米ドルで船を海賊から守ると宣伝しているコンサルタント会社も出現している。

いずれにしても、ソマリア海賊の活動海域が拡大している状況の下で、インド洋を航行する運搬船、漁船は十分な警戒をする必要があるだろう。

（問合せ先）

（社）責任あるまぐろ漁業推進機構
事務局長：田端 事業部長：人見
TEL：03-3568-6388
FAX：03-3568-6389